

保健栄養学特論 (2 単位)

担当者氏名 川野 因、日田安寿美、多田由紀

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本特論ではヒトを対象に健康の保持・増進、さらには生活の質 (QOL) の向上を目指した環境整備の一環としての食事や身体活動のあり方を検証することとする。そのためには、ヒトの健康状態を「人間まるごと」の目線で科学的に評価できることが重要である。また、食事・身体活動の在り方を実験的介入試験や疫学調査を用いて検証するスキルの習得が求められる。よって、本特論では国内外の健康づくり施策やスポーツ・栄養学の最新動向を中心に講義を展開し、保健分野での栄養施策に反映できるデータの取りかたおよび解析に関する基本的スキルの修得を目指す。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

健康づくり	食環境	食生活・食事	身体活動
客観的情報	主観的情報	ライフステージ	ライフスタイル

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の 内容と分量
1	保健栄養施策	国内外の各種保健栄養施策	保健栄養政策に採択されるためには客観的妥当性が必要である。事前準備として、①国内の栄養政策の確認、②ヒト対象支援の実施方法、③ヒト試験の解析、④報告書の作成について前回の学習内容と流れを理解しておくことが良い。復習については講義中に新たに修めた内容、指摘箇所を学習しておくことが良い(準備学習・復習で 3 時間程度)。
2	法律制定の背景要因①	健康増進法、健康日本 21 (第二次) の制定	
3	法律制定の背景要因②	食育基本法制定と食の役割	
4	現代的保健課題①	健康日本 21 施策と食事・食生活の役割①	
5	現代的保健課題②	健康日本 21 施策と食事・食生活の役割②	
6	現代的保健課題③	子どもにおける保健の現状と課題	
7	現代的保健課題④	成人における保健の現状と課題	
8	現代的保健課題⑤	高齢者における保健の現状と課題	
9	ヒト試験の計画	ヒトを対象とした実験計画 (倫理指針とその取扱い)	
10	ヒト試験の課題	ヒトを対象とした実験計画作成上の課題	
11	ヒト試験の解析①	無作為化比較試験とその検証例	
12	ヒト試験の解析②	クロスオーバー試験とその検証例	
13	ヒト試験の解析③	コホート研究とその検証例	
14	ヒト試験の解析④	横断研究とその検証例	
15	まとめ	データ発表	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

特に指定しない。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

健康日本 21 (第二次) / 厚労省 / 2013、日本人の食事摂取基準 2015 / 厚労省 / 2014

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業外レポート (80%) 及び授業参加に関する態度と姿勢 (20%)

◆オフィスアワー

毎週水曜日午後、研究室で質問を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

ヒトの生活・行動に興味と関心を持ち、課題を謙虚にみつめ、分析する態度を持ち、授業に積極的に参加すること。授業計画の進行状況により授業計画を変更する場合がありますので、予めご承知おきください。